

やじまかじこ 矢嶋楯子

女子教育に心血を注ぐ

48歳になった楯子は、校長代理として櫻井女学校を任せました。

その後、櫻井女学校と新栄女学校が合併し女子学院になると、57歳の楯子が初代院長に就任。校則は作られず、生徒たちは自由な校風の中、自ら正しい判断力を身に付けようと学びました。また、明治19年（1886年）、米国婦人禁酒会・レビット女史の来日をきっかけに、禁酒だけでなく、社会の悪い習慣を正すため、東京キリスト教婦人矯風会を設立し、初代会頭に就任しました。その3年後、「一夫一婦制」の建白書（政府などに意見を伝える書面）を国に提出する際は、白装束をまとい、短刀を身に付けて死を賭して提出したとされています。決死の願いが届き、明治31年（1898年）、一夫一婦制度が確立しました。

4度の海外渡航と最期

明治39年（1906年）、73歳の

楯子は、万国矯風会ボストン大会に出席するため渡航しました。当時の大統領、フランクリン・ルーズベルトからは、ホワイトハウスにも招待されました。

大正9年（1920年）には、万国矯風会ロンドン大会に出席。翌年には、満州（現在の中国東北部）などで講演をし、支部を設立しました。同年、ワシントン軍縮会議が開かれることになり、88歳という高齢での長旅を心配する周囲に、「天国は日本からもアメリカからも同じ距離」と話し出席。ホワイトハウスでハーディング大統領と面会し、平和を祈る1万人が署名した嘆願書を手渡しました。その際楯子が行った「平和の祈り」は、新聞報道でアメリカ中に広がり、世界で最も有名な日本女性になりました。

帰国後、過労で倒れ、生死の境をさまよいましたが回復。大正12年（1923年）に発生した関東大震災では、矯風会会員と共に負傷した人々の看護などに奔走しました。

大正14年（1925年）、楯子は92歳の誕生日を迎え、その年の6月16日に、矯風会の女性や娘の達子たちに見守られ、静かに天に召されました。

その後、楯子の願いを受け継いだ矯風会の活動により、未成年者飲酒禁止法、売春防止法が制定、また、女性の国政・地方参政権が認められました。現在当たり前になっている制度は、矢嶋楯子の生涯を賭した活動の上に成り立っているのです。

矢嶋楯子について詳しく知りたい方は、ぜひ四賢婦人記念館にお越しください。



プロデューサー（左）と山田火砂子監督（右）

矢嶋楯子の生涯が映画化

映画制作会社(株)現代ぷろだくしょん（東京都）が、映画「われ弱ければ 矢嶋楯子伝」の制作を決定しました。今作は、同名の小説（三浦綾子著）に感銘を受けた山田監督が、映画化を決意。今年7月にクランクインし、令和4年公開予定です。本町での撮影も予定されています。

去年12月17日、四賢婦人記念館（杉堂）で制作発表会見を行った山田監督は、「女性の応援歌を作りたい」と話しました。

明治14年（1881年）

櫻井女学校の校長代理に就任。

明治19年（1886年）

東京キリスト教婦人矯風会を組織し、初代会長に就任。

明治20年（1887年）

「一夫一婦制」の建白書を、死を賭して政府に提出。

明治23年（1890年）

櫻井女学校と新栄女学校が合併し女子学院に。初代院長となる。

明治26年（1893年）

東京矯風会を全国組織の日本キリスト教婦人矯風会とし、初代会頭に。禁酒運動、公娼制度廃止運動に尽力。

明治39年（1906年）

万国矯風会に出席するため渡航。ルーズベルト大統領と会見。

大正3年（1914年）

女子学院の院長から名誉院長になり、現場から退く。

大正10年（1921年）

ワシントン軍縮会議に出席し、ハーディング大統領と会見。

大正14年（1925年）

6月16日没。享年92歳。